

# 第14回全国川サミット in 猪名川 報告書

平成17年度

## 目 次

I. 開催概要	1
1. 全国川サミットとは	1
2. 猪名川町開催の意義	2
3. 開催目的	2
4. テーマ	2
II. 実施内容	3
1. 全国川サミットに向けた活動	3
(1) 「清流猪名川を取り戻そう町民運動基本計画」策定ワーキング会議	3
(2) 職員と地域住民による河川清掃	3
(3) ラジオ放送でのピーアール	4
①エフエムいたみ「猪名川物語」	
②ラジオ大阪「近畿川ものがたり」	
2. 第14回全国川サミット in 猪名川	5
(1) 8月5日（第1日目）	5
①猪名川流域市町の児童を対象とした一庫ダム見学及び川遊び体験	
②全国川サミット連絡協議会総会	
(2) 8月6日（第2日目）	7
①猪名川流域の小学生による河川愛護の研究発表	
②「2005わたしたちの猪名川」絵画コンクール表彰式	
③川サミット参加自治体紹介及び事例発表	
④猪名川上流域からの呼びかけ	
⑤C. W. ニコル氏の基調講演「森と海をつなぐもの」	
⑥パネルディスカッション「清流とともに暮らすには」	
⑦サミット宣言	
(3) 8月7日（日）	17
①川サミット記念碑の除幕	
②住民団体主催の河川清掃への参加・視察	
III. 効果等	18
添付資料	19

## 1. 開催概要

### 1. 全国川サミットとは

河川名を自治体名とする全国の市区町村が集まり、未来に向けての「川と流域の係わり」や「より良い川との共生」を探り、川の素晴らしさを全国に向けて発信していく年1回の貴重な大会である。

この全国川サミットは平成4年に富山県庄川町からはじまり、今回で14回目を迎える。

#### これまでの開催地

回数	開催地	テーマ
第1回	富山県庄川町	川は未来に夢はこぼ
第2回	北海道鶴川町	きらめきリバータウン ー川と人の未来を求めてー
第3回	静岡県大井川町	夢と希望あふれる川づくり ー川は命、未来の子供たちへ引き継ごうー
第4回	兵庫県加古川市	川は友だち ーひと・まち・川・ちょっと素敵な物語ー
第5回	徳島県那賀川町	未来へ語ろう！私たち川家族
第6回	秋田県雄物川町	川がつなぐ「ひと・まち・こころ」
第7回	宮崎県北川町	思いでいっぱい 不思議がいっぱい ー川を彩るホタルの光が子供たちへの贈り物ー
第8回	愛媛県肱川町	21世紀へのメッセージ ーそれは川から始まるー
第9回	三重県宮川村	川に愛される人になりたい ーちょっとすてきな川家族ー
第10回	兵庫県揖保川町	歴史に学び明日を見つめる川づくり ーともに創ろう川の未来水の未来ー
第11回	東京都江戸川区	暮らしにとけ込む、にぎわいの川 ～都市の中の川を考える～
第12回	岡山県加茂川町	森と川が伝える ふるさとのメッセージ ～水は生命の源～
第13回	奈良県十津川村	みんなで考えよう！河川環境

## 2. 猪名川町開催の意義

平成4年より始まった全国川サミットは、今年で第14回目を数え、兵庫県猪名川町で開催されることとなった。

猪名川町は、猪名川の源流のまちとして発展してきた。猪名川は、過去には「清流」と呼ばれていたが、この50年のうちに社会環境や生活環境の変化により、その姿を変えてきた。猪名川をかつてのように親しめる川として次代に引き継ぐため、平成15年に「清流を取り戻そう町民運動」基本構想を策定し、「清流が流れるふるさとのまち・猪名川」を目指している。

猪名川町は、平成17年4月10日に町制施行50周年を迎えた。今回の全国川サミット in 猪名川を町制施行50周年記念事業と位置付け、「清流を取り戻そう町民運動」を加速させる絶好の機会と捉えている。猪名川町内だけでなく流域市町にもこの取り組みを連携しながら推進し、さらにこうした取り組みを全国に発信していく。

## 3. 開催目的

- 猪名川を舞台に、住民の多様な活動を推進する。

「全国川サミット in 猪名川」を契機に、住民主体の活動を推進するとともに、活動を通じた住民同士の交流を図り、流域連携の新しいパートナーシップを確立する。

- 自然やレクリエーションの場である、猪名川の恵みを再認識する。

地球の大切な宝としての自然環境である「川」を守る心を養うとともに、かけがえのない猪名川を流域住民とともに再認識する。

- 清流猪名川を取り戻す取り組みを行っている猪名川町を全国にアピールする。

先人から受け継いだ豊かな自然を守り、親しめる河川環境の創造し、これらを次代に引き継ぐために「清流を取り戻そう町民運動」の取り組んでいる猪名川町の姿をPRする機会と捉え、これからの河川のあり方を全国に広める。

## 4. テーマ

清流とともに暮らす ～ええやん 猪名川 50年～

## II. 実施内容

### 1. 全国川サミットに向けた活動

全国川サミット開催を契機として、猪名川町の進める「清流を取り戻そう町民運動」を積極的に推進していくために、住民参加の川についての取り組み、各種事業を展開した。また、事前の広報活動としてラジオ番組に出演し、猪名川の素晴らしさをピーアールした。

#### (1) 「清流猪名川を取り戻そう町民運動基本計画」策定ワーキング会議

平成 15 年に策定した「清流猪名川を取り戻そう町民運動基本構想」をさらに具体化した「清流猪名川を取り戻そう町民運動基本計画」を策定するため、住民・各種団体・学識経験者・行政職員によるワーキング会議を組織した。

ワーキング会議で「清流猪名川を取り戻そう町民運動基本計画」の素案を策定し、パブリックコメントなどを経て、平成 17 年 7 月に基本計画が完成した。基本計画の概要については、広報紙等で周知するほか、全国川サミットで発表することとした。

#### 策定ワーキング会議名簿

区分	所属
学識経験者 (2名)	兵庫県立人と自然の博物館研究員 阿古谷小学校教諭
住民代表 (3名)	猪名川上流漁業組合長 環境住民会議 水環境グループメンバー 元ラブリバーINAGAWA 実行委員長
行政職員 (13名)	企画部 3名、総務部 1名、環境経済部 2名、 建設部 2名、上下水道部 2名、教育委員会 3名

#### 会議開催

第 1 回 平成 16 年 12 月 27 日 (月)

第 2 回 平成 17 年 1 月 24 日 (月)

第 3 回 平成 17 年 2 月 21 日 (月)

第 4 回 平成 17 年 3 月 14 日 (月)

第 5 回 平成 17 年 4 月 25 日 (月)

#### (2) 職員と地域住民による河川清掃

平成 15 年に策定した「清流猪名川を取り戻そう町民運動基本構想」に基づく取り組みのひとつとして、職員ボランティア河川清掃を地域住民とともに毎年 2 回実施して

いる。今年度は、全国川サミット・河川会場となる猪名川町木津地区内の猪名川で河川清掃を実施した。

実施日時 平成 17 年 7 月 16 日 (土) 午前 8 時～同 11 時

実施場所 猪名川町木津ふるさと館周辺  
(ふるさと館芝生広場～木津橋 延長 450m)

参加人数 50 名 (地元自治会 6 名、町役場職員 44 名)

収集量 ヨシ、笹、低木など 580kg

現場写真 作業前 作業後



### (3) ラジオ放送でのピーアール

全国川サミット開催前の 7 月、ラジオ放送で猪名川町の「清流猪名川を取り戻そう町民運動」や全国川サミットについて、猪名川流域全体にピーアールを行った。

#### ① エフエムいたみ 「猪名川物語」平成 17 年 7 月 25 日 (月) 午前 10 時 30 分～11 時

<http://www.itami.fm/news/news200507.html>

7 月の河川愛護月間にあわせて「エフエムいたみ」が実施した「猪名川キャンペーン」で、環境や自然など猪名川を探る特別番組「猪名川物語」を 4 回シリーズで放送。

第 1 回 (7 月 4 日) 「猪名川の源流をたどる」

第 2 回・第 3 回 (7 月 11 日・18 日) 「猪名川と防災」

第 4 回 (7 月 25 日) 「全国川サミット in 猪名川」

#### ② ラジオ大阪「近畿川ものがたり」平成 17 年 7 月 31 日 (日) 午前 7 時 30 分～8 時

<http://www.k-monogatari.com/kawa05/9/1.html>

## 2. 第14回全国川サミット in 猪名川

河川名を自治体としている全国の市区町村から以下の自治体の参加を得て、8月5日（金）から7日（日）の3日間にわたり、猪名川町内で開催された。

<http://www3.town.inagawa.hyogo.jp/furufuru1/furufuru-17-9.htm>

### 【参加団体】

全国川サミット連絡協議会（下記自治体の首長、職員、議員など54名）

北海道鵜川町、秋田県雄物川町、東京都江戸川区、富山県砺波市、岐阜県揖斐川町、  
兵庫県加古川市、兵庫県揖保川町、奈良県十津川村、宮崎県北川町

猪名川流域市町

兵庫県尼崎市、伊丹市、宝塚市、川西市  
大阪府豊中市、池田市、箕面市、能勢町、豊能町

### (1) 8月5日（第1日目）

#### ①猪名川流域市町の児童を対象とした一庫ダム見学及び川遊び体験

猪名川流域の子どもたちに、水の大切さを理解し、河川に親しんでもらうために、川西市にある一庫ダムの見学と猪名川町内の河川での川遊びを体験できるツアーを実施した。猪名川流域の市町から432人の児童生徒、保護者が参加した。

午前中には、普段は入ることのできない一庫ダムの堰堤内を見学し、一庫ダム管理所職員による説明が行われた。



一庫ダム管理所職員による説明

ダム見学後、猪名川町木津のふるさと館芝生広場へ移動し、ふるさと館周辺河川でカヌー体験、魚のつかみ取り、水生生物学習会を実施した。

### 【参加者状況】

参加人数	432人
年代別内訳	幼児9人、小学1～2年生17人、小学3～6年生261人、 中学生15人、高校生3人、保護者・教職員127人
市町別内訳	尼崎48人、伊丹46人、宝塚46人、川西51人、猪名川76人、

豊中 72 人、池田 48 人、能勢 26 人、豊能 19 人



カヌー体験（左）と水生生物学習会（右）

## ②全国川サミット連絡協議会総会

今回の全国川サミットに参加している 10 団体の代表が出席し、全国川サミット連絡協議会の総会が尼崎高原ロッジ（猪名川町笹尾）で開催された。

### 【総会内容】

会長あいさつ

全国川サミット連絡協議会会長 猪名川町長 真田保男

参加団体紹介

北海道鶴川町、秋田県雄物川町、東京都江戸川区、富山県砺波市、岐阜県揖斐川町、兵庫県加古川市、兵庫県揖保川町、奈良県十津川村、宮崎県北川町、兵庫県猪名川町

主な議題

前回サミットの事業及び収支決算報告、今回サミットの事業計画及び収支予算（案）、共同宣言（案）、連絡協議会会則の変更などすべての議題について、満場一致で承認。会則の変更では、昨今の市町村合併を考慮し、また多くの団体が参加しやすいように、会員を一級河川流域市区町村に拡大した。



全国川サミット連絡協議会総会



## (2) 8月6日(第2日目)

猪名川町文化体育館(猪名川町白金)を会場に、第14回全国川サミット in 猪名川を開催した。メインのイナホールでは、猪名川流域小学校の研究発表、C.W.ニコル氏の基調講演、パネルディスカッションなどを行い、最後に全国川サミット共同宣言を採択した。また、小ホールでは、猪名川河川事務所、一庫ダム、兵庫県立人と自然の博物館のブースが設けられ、ロビーでは、絵画コンクールの入賞作品が展示された。

### 【参加者状況】

参加人数 約800人

主な内訳 小中学生100人、全国川サミット連絡協議会50人、流域市町長など招待客50人、一般客600人



当日受付のようす

### ①猪名川流域小学校による河川愛護の研究発表

猪名川流域小学校の総合学習などで河川の水質や生物の研究をした成果が発表された。今回は、伊丹市立鴻池小学校、能勢町立岐尼小学校、川西市立多田東小学校、猪名川町立阿古谷小学校の4校が発表を行った。兵庫県立人と自然の博物館主任研究員の田中哲夫先生がコメンテーターとして、各発表に対して講評をいただいた。

#### 【発表小学校】

伊丹市立鴻池(こうのいけ)小学校(発表:6年生4人)

「河川での学習・河川観察の様子」

能勢町立岐尼(きね)小学校(発表:5年生16人)

「川と環境」

川西市立多田東(ただひがし)小学校(発表:6年生担任1名)

「猪名川の自然」 <http://www.e-ina.net/10ch/index.html>

猪名川町立阿古谷(あこたに)小学校(発表:4年生10人)

「阿古谷川の調べ学習」



阿古谷小学校の研究発表

【講評】 田中哲夫先生（兵庫県立人と自然の博物館主任研究員）



「猪名川には、きれいなところに住む生物と、ちょっと汚れている、汚いなというところの生物が、非常に混在しているところだという気を強くしました。混在していて、汚れているところには汚いところに住む生物がいて、そこは何か、人間がしたことですので、手を打てるはずだという気がしました。

猪名川には、魚だけを言いますと、50種類近くの淡水魚が住んでいます。大和川といった川よりはるかに多い魚の種類で住んでいます。おそらく猪名川から完全に絶滅させた魚というのは非常に少ないと思います。現在まだ何とかきれいなところに残っているわけです。それをもっともっと川の上流から中流、下流に至るまで復活させることが非常に大切だという気がしました。

これからどんな猪名川にしていきたいのかというところを、具体的に、サワガニの住む川にしてほしい、あるいは、泳いだり、魚を釣って食べたりできるとか、人と猪名川との関わりがどうあってほしいということ、を、どんどん地域の人たちから声を上げていただきたい。その原動力として、今日発表していただいた4校の皆さん、あるいはこのことを後輩たちに伝えて、あるいは自分たちも大きくなってもずっとそのまま、猪名川がどうあってほしいという意見を発し続けていただきたいと思います。」

## ②「2005わたしたちの猪名川」絵画コンクール表彰式

16年目を迎えた今年の絵画コンクールには、1,062点もの多数の応募がありました。表彰式には、各賞に選ばれた30名の受賞者とその家族の方々が参加しました。

<http://www.e-ina.net/8ch/09/index.html>

【受賞者】

近畿地方整備局長賞（2点）

池田市立秦野小学校 3年 板橋初音

川西市立川西小学校 5年 下田耕太郎  
大阪府知事賞 (1点)

豊能町立吉川小学校 6年 山本真士  
兵庫県知事賞 (1点)

川西市立東谷中学校 3年 西本有里  
審査員特別賞 (2点)

能勢町立東郷小学校 3年 瀬川幸永  
猪名川町立猪名川中学校 2年 小嶋志津香  
猪名川河川事務所長賞 (8点)、奨励賞 (16点)



絵画コンクール表彰式 (左) と会場内での展示 (右)

### ③川サミット参加自治体紹介及び事例発表

今回の全国川サミットに参加している10団体がスライドで紹介されたのち、東京都江戸川区の親水公園整備や奈良県十津川村中学生の研究発表などが行われ、各団体での河川に対する取り組みが紹介された。猪名川町の発表では、本年7月に策定した「清流猪名川を取り戻そう町民運動基本計画」の紹介を行い、住民、事業者、各種団体そして行政が連携して「清流が流れるふるさとのまち・猪名川」づくりを目指すことを、参加者に広く周知した。

#### 【参加団体紹介】

北海道鵜川町、秋田県雄物川町、東京都江戸川区、富山県砺波市、岐阜県揖斐川町、兵庫県加古川市、兵庫県揖保川町、奈良県十津川村、宮崎県北川町、兵庫県猪名川町

#### 【事例発表】

東京都江戸川区 (江戸川区土木部長 土屋信行)

「江戸川区の川と水辺」

奈良県十津川村 (十津川村立西川中学校生徒)

「串崎に見られる川のはたらき」

兵庫県猪名川町 (清流を取り戻そう町民運動ワーキングチーム座長 藤本真里)

「清流猪名川を取り戻そう町民運動基本計画」



猪名川町・藤本真里さんの発表

#### ④猪名川上流域からの呼びかけ

猪名川上流域の兵庫県川西市と猪名川町、そして大阪府豊能町、能勢町の1市3町が発起人となって、清流猪名川を取り戻すためには今後流域市町が連携を取っていかうと、「清流猪名川を取り戻そう流域同盟」が設立された。

発起人である4市町長から、流域同盟の設立の経過や目的などについて説明し、流域市町にも呼びかけた。

##### 【発起人】

兵庫県川西市 柴生進 市長（代理：川西市 古川武司 助役）

大阪府豊能町 日下纒子 町長

大阪府能勢町 中和博 町長

兵庫県猪名川町 真田保男 町長

##### 【流域同盟の設立の趣旨説明】猪名川町町長 真田保男

「このたび猪名川町が策定した「清流猪名川を取り戻そう町民運動基本計画」では、それぞれの得意分野や清流への思いをもとに連携を図りながら、この運動を猪名川の源流のまちから猪名川流域全域に拡大し、流域市町との広域的な連携も図っていきたくて考えています。このことから、猪名川上流域の4市町長が発起人となって、「清流猪名川を取り戻そう流域同盟」設立に向けた取り組みを進めることとしました。

流域同盟では、「きれいな猪名川はみんなの誇り、猪名川をみんなの力で愛着のわく魅力ある川にしよう」を合言葉に、私たちの生活を支える重要な要素となっております河川環境の改善に取り組むことを目的としています。

猪名川流域は、急激な都市化の進展や産業の発展などに伴う親水性の低下や、水質の悪化などによって、私たちを川から遠ざけ、川と地域の結びつきを希薄なものとしてまいりました。身近にありながら遠い存在となってしまった川を自分たちの生活の中に取り戻そうとするものです。

今回設立します流域同盟につきましては、流域住民等の参画と協働を基本とした、ソフト重視の自治体間住民の連携促進を図ることを目的としています。このため、

事業の推進にあたっては、住民、各種団体、事業者などと行政が連携を図る機会を設け、各主体が意見交換を図りながら、清流を取り戻すための運動の推進を図ります。

具体的な取り組みといたしましては、「水の循環型活用と水量確保」「河川環境の改善」「川とのかかわり方の再構築」の3分野に分け、その実現に努めます。

このように流域の視点に立って、さまざまな形で連携することの大切さをテーマに、流域全体の川の環境をよくしていくために、流域内の自治体間で、そして世代を超えて、人と人との連携の重要性を呼びかけ、川と地域の新しい関係づくりや、将来の川づくりを目指すこととします。

どうか流域の皆さま方におかれましても、説明いたしました趣旨にご賛同いただき、清流猪名川を取り戻すための活動に意欲的に取り組むことにより、皆さま方一人ひとりが猪名川に寄り添うまちの住民として、先人から受け継いだ豊かな自然を守り、これを次世代に引き継ぐことがぜひとも必要であるという意識をもって取り組みを進めていきたいと考えています。」

#### ⑤C. W. ニコル氏の基調講演「森と海をつなぐもの」

作家 C.W.ニコル氏が、日本で感じた森林や河川の破壊による環境変化を指摘し、森と川、海をつなぐサイクルを取り戻し、美しい日本をつくり直そうと訴えた。



C.W.ニコル氏の講演のようす

#### 【講演要旨】

「自然の中でサイクルがあるんです。水が引力によって下へ流れていく、全部海へ流れていく。水だけだったら雨が運んでくるけど、ミネラルとか、そういうものどうするのか。カナダの場合はサケだったんです。サケが海から川に入るときに、もう餌食べないんです。犠牲払いながら、戦って、戦って、自分が生まれた砂利場で産卵をして、体がボロボロになって死ぬ。でもそれはむだじゃない。でもその親の栄養が分解されて、岩の藻の栄養になる、それは昆虫が食べるんです。小さなプランクトンの栄養になる。それはもうちょっと大きいプランクトンが食べて、稚魚が食べるんです。サケが上がっている間、死にかかってから熊が川から森に運ぶんです。そして6割くらい食べ残しちゃうんです。そのサケの栄養も森の栄養になっている。海の魚がい

る森は、病気が少ないし、年輪がうんと太い。ここにはサケがなかったかな。でもアユがある。必ず海と縁があつて、何か逆のサイクルがあるんです。鳥かもしれません、アユかもしれません、人間かもしれません、日本の場合はサケと鳥と人間だと思うんです。海の大事な栄養はもったいないから、また使っていましたね。このサイクルを切っちゃだめなの。

もう一回、日本人の長年の経験と努力で働いて、この国を美しい国にしようよ。できます。テムズ川にもサケが上がっている。あの死んだテムズにはサケが上がっている。テムズに面していたパブとか、教会とか、小さな店が全部繁盛でよかった。我々の環境は我々です。お願いします。これを5年かかっても、10年かかっても、50年かかっても、負けないで、どんどんやって、どんどん美しい国をつくってください。」

#### ⑥パネルディスカッション「清流とともに暮らすには」

【コーディネーター】中瀬勲（兵庫県立人と自然の博物館 副館長）

【パネリスト】 牛尾巧（特定非営利活動法人野生生物を調査研究する会副理事長）

熊谷晋（流域ネット猪名川代表）

C.W.ニコル、真田保男（猪名川町長）

#### 【ディスカッション要旨】

熊谷晋

「流域ネット猪名川の代表として願うことは、当たり前のことですが、一人ひとりが川を生き物であるということ認識して、ゴミを捨てないとか、天ぷら油を流したりしないようにといったことを、大人も、子供も、家庭全体でそういうことを心がけられるようになっていような社会と、猪名川だけじゃないですけども、猪名川の周りに住む方々や社会全体がそういう考えをもっていけることが、本当に理想だと思います。そのために我々や、ここに集まっている河川に興味を持っている方だとか、自然を愛する人たちもしくは行政が呼びかけて、常に前進していければいいと思います。」

清流を取り戻すということはものすごく大切だと思います。猪名川のように、上流には自然が残っていて、中・下流は尼崎のような都市部を流れています。上・下流域に住んでいる方のこの河川であってほしいというニーズは、河川が長ければ長いほど多様になると思います。それをしっかり話し合う場というものができて、そこで話し合つて、行政も含めて、それではこういう河川にしていましょというふうな話の場ができればいいかなと思います。」

牛尾巧

「今日、配布された町民運動の冊子とか流域同盟の冊子、これと同じ思いです。まさに猪名川の日というのを本当に設定してできるかという、私は本当にそう思い

ます。これの一番下の具体的な取り組み、これが勝負かなと思います。

国交省とか、県も、府も、市・町も、個々で組織的な実践をされています。しかし、本当に市・町を超えて、猪名川流域がこぞって一つのことをやろうと思ったら、まさに猪名川プロジェクトがいるわけです。上流域には、能勢町、豊能町、猪名川町、川西市も含めると 100 本近くの支流、枝川があります。まさに一緒にやらないと難しいということです。

猪名川は 180 万人も関わっている私たちの川です。猪名川の日を、まさに猪名川に対して感謝の気持ちを行動であらわす日と言ってもいいのではないかと思います。」

### C. W. ニコル

「川を急かしてはダメですね。止めてはダメですね。ちょっと待ってよ、というのが正しいじゃないかな。自然の中はそうですね。」

また、我々も小さな財団ありますけれども、財団の仕事するためにボランティアだけ相手にするとダメです。やっぱりプロがいないとだめです。日本には、呼び方は適当につくればいいと思いますけれども、リバーキーパーのような、そういうプロが必要だと思います。日本は、国立公園のレンジャーの数が世界一少ない国ですから、どのくらいになるかなと考えます。まちでつくったほうがいいかなと思います。

ボランティアが長続きするために、幸せじゃないとだめでしょう。だから幸せのためにちゃんと家族も育てて、安定した、別にすごい給料を誰も求めないでしょう。だからボランティアからプロをつくることは正しいと思います。」



パネルディスカッションのようす

### 真田保男

「私はやはり昔の川を思い出すと、どこに行っても子供たちが夏休みになると川遊びをしていて、歓声が聞こえてくる、そんな楽しい川のイメージがあるわけですので、そういう川に早く戻ればという思いをもってそれぞれの取り組みを考えてい

ます。

この猪名川を本当にきれいにしようとする、周辺都市が開けてきてしまっており、まさに都市河川という川ですので、水質の問題についても、流量調節の問題についても、いろいろと難しい問題はあると思います。けれども、猪名川町は猪名川の最上流部にあつて、猪名川町が強い意思をもって、流域の各自治体と協働した取り組みに発展させていかなければならないと思っています。

ここに住んでいる猪名川町の町民ぐるみの取り組み、そういったことが下流自治体や周辺の地域に、その活動へと発展が広がっていくと思っていますので、猪名川町内においても、特に住民の皆さん方に、猪名川の大切さ、そして猪名川がいかにあるべきかということの協議を、今後積極的に進めながら、まちづくりを進めていきたいと思っています。」

#### 中瀬勲

「日本の私たちというのはすごい水の文化を持っていると思います。「水」という言葉が出てくる言語を持っている国民は日本人しかいないです。そういう意味では我々の先輩たちから私たちはずっと水に関するすごい遺伝子を継承しているはずで、それをもう一度我々の世代で、ひょっとしたら眠っていた遺伝子があるのかしれないので、それをもう一回呼び覚まして、川づくりにどう展開するのかということが大事かなという気がしました。



次に、ニコルさんが言っておられた、循環の議論も必要です。私なりに理解しますと、「森と海をつなぐもの」これは川というだけの議論はされませんでした、大きい循環で流域、川を考えましょうという趣旨を、「森と海をつなぐもの」というテーマでいかれたと思います。そうすると私たちの川は、循環をつなぐにはバリアーがあまりにも多すぎるのではなかろうかという気がします。そういう意味ではぜひ川のバリアフリーとか、川のユニバーサルデザインを、人間、魚、生き物、さらに水の流れ、風の流れ、そういったことを考えていくと、けっこうおもしろい話ができるかなという気がします。

最後に、皆さん方が言われた話ですが、ボランティアの話、ニコルさんからプロの話がありました。兵庫県では「参画と協働」ということを言っています。要は行政も、市民も、企業も、NPOも、NGOも、みんな一緒になって、川をどううまく運営していくのか「川のマネジメント」をみんなで参画と協働でどうするのかという話をしていただいたと思います。まさにコミュニティ単位でやりましょうとか、小学校単位でやりましょうとか、上下流間の連携でやりましょうとか、まさに川をどううまくマネジメントするかという話をしていただいたと思います。



猪名川町は山と海を結ぶ接点にある、猪名川町が中心になって海と山を結びつけて、連合体をどう構築していくか、ぜひこういう発想で、いろいろな方々のご提案あったものを踏まえながらぜひ発信していただけたらありがたいかなという気がします。」

⑦サミット宣言



サミット宣言のようす

## 第14回全国川サミット in 猪名川 共同宣言

淀川水系の一級河川猪名川は、その源を猪名川町の阪神地域最高峰の大野山に発し、東西を日本有数の里山と呼ばれる北摂連山の急峻な溪谷を大阪・兵庫の府県境を南下しながら、支川と合流し、やがて神崎川に合流しています。

「第14回全国川サミット in 猪名川」は、町制施行50周年を迎えた猪名川町に集い、「清流とともに暮らす」～ええやん猪名川50年～をテーマに開催しました。

先人から受け継いだ豊かな河川を、身近で親しめる河川として次の世代に引き継ぎ、水を育む森、水の流れ、豊かな自然とのより良い共生を創造することをともに誓い合い、ここに宣言します。

1. 人から受け継いだ豊かな自然を守り、  
親しめる河川環境を創造してその魅力を次の世代に引き継ぎます。
1. 自然について学習を深め、川とのふれ合いを通して、  
川・ひと・地域の新しい関係を築きます。
1. 清らかで豊かな水の流れを育みながら、  
地域の特性を反映した「清流」の創造を図ります。
1. 流域の人々との交流を深め、参画と協働による河川愛護の醸成と  
より良い地域づくりに努めます。
1. 清らかな水と豊かな緑に育まれた国土の創造に向けて、  
全国の川を愛する人々と協力し合い、友好を深めます。

平成17年8月6日

第14回全国川サミット in 猪名川参加者一同  
代表 猪名川町長 真田保男

(3) 8月7日(日)

事業報告 Ⅲ

①川サミット記念碑の除幕

第14回全国川サミット in 猪名川開催を記念して、猪名川町木津のふるさと館芝生広場に記念碑を設置し、全国川サミット参加者(連絡協議会)による除幕を行った。



全国川サミット記念碑の除幕

②住民団体主催の河川清掃への参加・視察

猪名川町商工会が中心となった住民団体主催の第13回ラブ・リバー-INAGAWAが、猪名川町杉生地区で開催された。ラブ・リバー-INAGAWAには約500人が参加し、河川清掃、オオサンショウウオ学習会などが行われた。



ラブ・リバー-INAGAWA のようす

### Ⅲ. 効果等

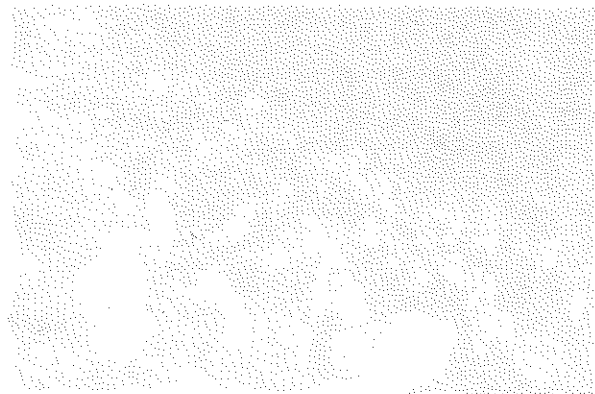
今回、町制施行 50 周年記念事業として、8 月 5 日（金）から 7 日（日）までの 3 日間、第 14 回全国川サミット in 猪名川を開催し、多くの住民、流域市町からの参加があった。

初日の川遊び体験等では、日頃、川に入ることのない都市部の子ども達に、猪名川に実際に川に入って水生生物の採集やカヌーなどを体験してもらうことにより、猪名川上流域では水質は良好で、河川は身近な遊び場であることを理解してもらった。この体験をきっかけに、水の大切さ、河川愛護への思いが芽生えてくると考えている。

2 日目のサミットでは、猪名川上流からの呼びかけやパネルディスカッションを通して、猪名川流域で活動する方の猪名川に対する思いが述べられ、今後、清流猪名川を取り戻していくにはどのような取り組みが必要かについて意見が交わされた。「猪名川の日」の制定など様々な提案が行われ、パネリストだけでなく参加者も今後の猪名川への思いを共有し、これからの展開の足がかりをなした。

現在、最初のステップとして「清流猪名川を取り戻そう町民運動」基本計画で挙げている「連携部会（川と親しむ部会、川と水と人の部会、川づくり部会、川ネット部会）」設置に向け、現在、会員を募集しているところである。

今後、全国川サミットで採択された共同宣言を尊重し、「清流猪名川を取り戻そう町民運動」の推進を図っていくととしている。



添付資料

・配布資料一式

清流猪名川を取り戻そう町民運動基本計画書、清流猪名川を取り戻そう流域同盟

・新聞記事（下のとおり）

8月7日（日）産経新聞

平成17年(2005年)8月7日 日曜日

## 事例発表やニコルさん講演

### 猪名川で全国川サミット

「第十四回全国川サミット」猪名川が六日、猪名川町の町文化体育館（イナホール）で開かれ、全国の十自治体などから約八百人が参加した。

猪名川流域の小学校に通う児童らによる研究発表や、参加自治体の事例発表、作家のC・W・ニコルさんの基調講演、猪名川流域の住民によるパネルディスカッションなどが行われた。

また、猪名川町、川西市、大阪府豊能町、同能勢町の各首長が発起人となり、「清流猪名川を取り戻そう」流域同盟の設立を宣言。今後ほかの流域自治体にも呼びかけを行っていくという。最後にサミットの共同宣言を行った。

全国の一級河川の名前を自治体名としている市町村が集まり、川と流域とのかわりなどを考

8月7日（日）朝日新聞

## ニコルさんが川の破壊戒め



「第十四回全国川サミット」が6日、猪名川町白金1丁自の町文化体育館で開かれた。地元の小学校やサミットに参加した自治体が、猪名川やそれぞれの地域を汚れる川について発表したほか、作家のC・W・ニコルさんが講演した写真。

ニコルさんは「森と海をつなぐもの」と題して講演。約40年前に初めて日本を訪れた際に触れた美しい山や川が、乱伐や砂防ダムの設置で破壊されていくと指摘。「日本の未来は森と川、沿岸漁業が元氣かどうかにかかっている。それらをつなぐサイクルを取り戻し、美しい国につくり直そう」と訴えた。

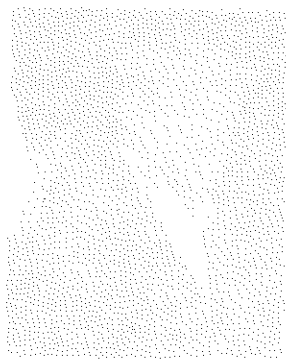
最後に、「親しめる河川環境を創造してその魅力を次の世代に引き継ぐ」などとする共同宣言を採択し、閉会した。

# THE UNIVERSITY OF CHICAGO

## THE UNIVERSITY OF CHICAGO PRESS

THE UNIVERSITY OF CHICAGO PRESS  
50 EAST LAKE STREET  
CHICAGO, ILLINOIS 60607  
TEL: 773-709-3000  
WWW.CHICAGO.PRESS.EDU

### THE UNIVERSITY OF CHICAGO PRESS



THE UNIVERSITY OF CHICAGO PRESS  
50 EAST LAKE STREET  
CHICAGO, ILLINOIS 60607  
TEL: 773-709-3000  
WWW.CHICAGO.PRESS.EDU

THE UNIVERSITY OF CHICAGO PRESS  
50 EAST LAKE STREET  
CHICAGO, ILLINOIS 60607  
TEL: 773-709-3000  
WWW.CHICAGO.PRESS.EDU